

小学校英語教科指導法における絵本の読み聞かせの有効性

—絵本を活用した模擬授業の具体例を通して—

Picture Book Reading Activities for Elementary English Education

— Introduction to Reading activities in Extension class —

オチャンテ・カルロス

OCHANTE, Carlos

要旨

新学習指導要領が示され、2020年に小学校英語が教科化される。「外国語活動」と「外国語」に向けて小学校での英語教育の取り組みが本格的に増加している傾向にある。小学校での英語教育ではコミュニケーション能力の育成を重点に置いている。しかし、学級担任が授業を行うことが求められている中、担任の英語によるコミュニケーション能力が現在大きな課題になっている。教員養成コースでは様々な英語指導法や活動が行われている。特にその中で、英語の児童文学の活用や絵本の読み聞かせを活かした指導法が注目されている。英語によるインプット効果が取り上げられ、小学校段階の子どもにとり、絵本を使った学習が取り組みやすいとされている。本稿では教職課程履修用の英語科指導法クラスで、指導法の一つとして英語の児童文学や絵本を使用した。本稿では絵本の読み聞かせ活動の紹介をし、具体的な指導法の実践例を述べる。

キーワード：小学校英語教科、次期学習指導要領、読み聞かせ、英語絵本、異文化理解

I. はじめに

小学校における英語教育は2011年の「外国語活動」として本格化したといえる。現状としては、小学校高学年においては、英語に楽しく触れ、慣れさせることを目的としてきたが、新学習指導要領では簡単な文の構造を含んだ英語の文法も学ぶことになる。また、2014年の公益財団法人日本英語検定協会の調査によると1~4年生でも何らかの「外国語に触れる活動」をしている学校が6割前後あり、低学年でも英語が実施されている学校もあることが明らかになった。文科省による「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」において細かな授業プランも策定され、議論は教科化を前提とし、「何を」「どのように」教えるのかということに向かっていった(松本、2015年)ことは明白である。結果として2020年には小学校において英語が必修化され、新学習指導要領に向けて現在移行期間中である。小学校の担任教員は英語を指導することはこれまでなかったために、英語の指導力不足が課題として挙げられている。小学校での英語は、英語のスキル指導が中心ではなく、コミュニケーション能力の育成を重点に置いているので、ALTや専科教員だけに任せるのでは

なく、児童の実態を把握している学級担任が授業を行うことが求められている（吉村・吉田・今井・福島、2017）。現状では小学校の教員を対象にした英語教育の研修や中学校の英語課との連帯が推進されており、教室では英語専科やALTのサポートで英語教育が行われている。また、教員養成コースのある大学でも小学校における英語の指導法を扱うようになってきている。新学習指導要領の開始に伴って、英語を教科として指導できる小学校教員養成が急務となっているのが現状である（熊田・岡村、2017）。

II. 小学校英語活動における英語絵本の活用

新学習指導要領では「聞くこと」は「思考力、判断力、表現力」の領域の一つとして扱われている。また、英語活動において「聞くこと」は「身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容が分かったりする活動」と述べられている。この指導内容から見て、筆者は「英語絵本の読み聞かせ」は効率的な英語指導法の一つと考える。これについて、松本（2015）は「絵本は第二言語習得理論の4つのインプット条件のうち「理解可能性」「関連性」「真正性」の全て、また「音声と文字の条件」についても初等教育に必要な範囲を満たし、英語絵本は初等英語教育において最適の教材の一つである」と述べている。

本稿で対象にしている具体的事例は小学校現場で英語を指導する場面で必要とされる、英語力や指導方法を身に付けさせることを目標としている。そのため、児童の発話を増やすことにつながるよう英語を通用の言語とし、授業内容の理論などの指導までオールイングリッシュで行うこととした。小学校で扱う基本的なクラスルームイングリッシュから実践的な英語活動とその指導法も扱う総合的な学習であるが、対象となる小学校児童と学生の英語力を考慮し、取り扱う内容は学生の学習・進行ペースに合わせて行った。

本稿は児童文学と絵本の読み聞かせについての活動を小学校英語指導方法に取り入れ、学生の授業の指導過程を記録し、リフレクションペーパーなどのデータをまとめ、対象学生における言語の運用や指導方法の工夫を向上させた実践例を述べる。

III. 「絵本読み聞かせ」にいたるまでの活動

本稿で実践例として上げるのは児童文学紹介、リスニング活動としての絵本活用を目的にした「English Picture Book reading activity」という活動事例である。絵本を教材にし、読み聞かせの練習から実際に絵本の読み聞かせを活用した模擬授業型の活動を実施した。本活動を実施したクラスはこれまで英語による発音、アクセント、イントネーションの指導を基に、英語によるスピーチプレゼンテーションやクラスルームイングリッシュ指導に有効な成果が得られた。スピーチ活動では英語の発音だけでなく、非言語的で異文化を活かした英語のイントネーションの豊かさやジェスチャーの使用で学生の英語の表現力を活かした発話を有効に実現された。活動の様子をビデオで記録し、専用のホームページで共有することで学生が自分のスピーチをリフレクションすることができ、フィードバックが得られた（画像1）。

これらの活動には言語と非言語によるコミュニケーションの力と合わせることでより、英語の聞き手である児童に「聞きやすさ」の効果が得られることが実践された。学生は英文をどのように読めば自分のメッセージが伝わるかを声と体（ボディランゲージ）で体験し、その知識を活かして、絵本の読み聞かせにどのように活かせるかを考えた。そのため、本活動を通して、「英語の絵本の読み聞かせ」からどのような小学校英語科指導法を学生が身につけたかを調べる。

画像1 クラス専用のホームページに共有されたスピーチ活動の様子



IV. 英語絵本の読み聞かせの実践例

(1) 方法

① 対象として扱うのは本学の英語エクステンション授業である。対象学生は本学学生2年生～3年生で、本学の教職過程を履修中、小学校の教員免許を取得予定である。

② 読み聞かせ時間は5分～10分以内（クイズなどの活動を含む）

③ 読み聞かせの指導及び練習

およそ2回の授業を通して次の点を扱った

- ・絵本選定（絵本の英語レベル調整）

インターネット上での絵本紹介のサイト（画像1）または図書館で絵本を選定した。

- ・絵本の読み方（音声言語指導）

絵本が含む表現や独特な擬声語の理解についての指導

- ・絵本内容における異文化理解（独特な意味や習慣の違いが現れる場面など）

- ・読み聞かせにおける工夫

内容や絵本キャラクタ、主人公に関するクイズで対話的な活動を工夫。

④ 絵本の読み聞かせを記録した映像の教材と共有

読み聞かせの練習及び復習としての映像教材を作り、クラス専用のホームページで共有した（画像2）。

⑤ 小学校「外国語活動」や「外国語」で取り扱う英文を参考にし、「Let's Try」または「We Can!」を参考にすること。

⑥ クラブルームイングリッシュの実践

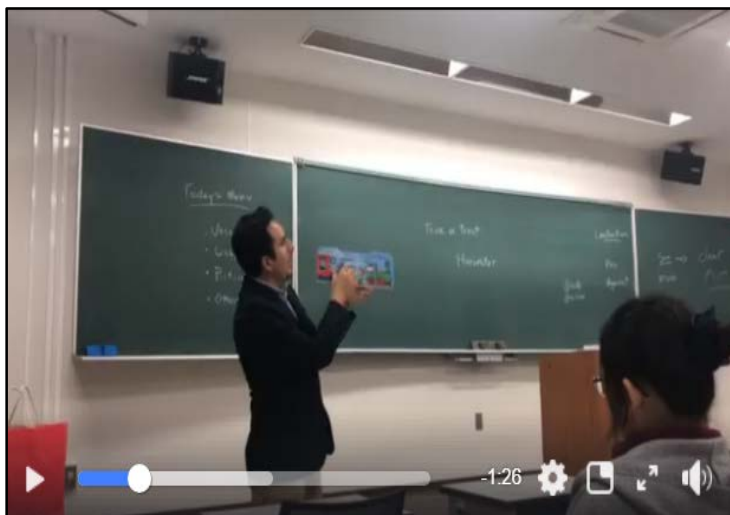
読み聞かせの前後における内容の導入や挨拶などの英語表現指導としては次の例をあげる。

- Hi Everyone, Today I will read you this book!
- This book is about ~
- What is this?
- Do you like ~?
- How many ~?
- This is the end of my book!
- Did you like it?
- Thank you for listening!

画像2 Youtube による絵本紹介と読み聞かせの指導例。



画像3 担当講師（筆者）による読み聞かせ手本の映像教材の様子。



(2) 実践例

本活動では15人の学生による絵本の読み聞かせを行った。本稿で取り上げるのはその中からの2例とする。

事例① 「Where is～？」を扱った英文

小学校5年の外国語教材「We Can!」でも取り上げられる「Where is～」（Unit6）を活かした疑問文で対象の児童に英語でクイズする形式が実現できる絵本の事例を取り上げる。（画像4）。

本事例では読み聞かせの対象（リスナー）がクイズを楽しむ、参加型の読み聞かせが実現できた事例である。絵本に主人公が隠れていて、「Where is +主人公（名詞）」を使いながら隠れている場所や出てくる他のキャラクター（Animals）のボキャブラリー導入または発音練習が可能である。（4分程度）

画像4 読み聞かせの様子①



事例②「What do you want」を扱った英文

小学校4年生外国語活動教材「Let's Try」で取り上げられる「What do you want」(Unit 7)を活かした疑問文で子どもの食生活指導などの生活指導を内容にした絵本である(画像5)。事例①と同様でリスナーを対象に様々なクイズをすることで対話的な活動が実現された。(5分程度)

画像5 読み聞かせの様子②



V. 学生からの反応およびリフレクション

絵本の読み聞かせが終了後に口頭による感想交換やリフレクションペーパーの記入などを行った。そこで得られたデータを書きに示す。

(1) 「リーディングスキル」の重要性としての反省点

英語の文書を読む機会がない学生にとって今回の活動は自分の英語購読意識及び英語の読解力(リーディングスキル)の重要性を再認識することへ繋がった。

(2) 児童の前で英語を表現する難しさ

英語リーディング力以外に表現力を活かして、笑顔で楽しく絵本の読み聞かせは難しいと感じた学生は多かった。

(3) 「読み聞かせ」と他の活動との合併

絵本に出現するボキャブラリーや主人公などの導入またはクイズなどのリスナーとのインタラクションを活かすことでコミュニケーションを図る大切さを分かった。読み聞かせにこれらの工夫を取り入れることで読む側もスムーズに活動を進行ができる。

VI. 今後の課題

本稿で取り上げた絵本の読み聞かせは大学のエクステンションクラス内で実施された模擬授業である。学生は今後の教育実習でこれらの活動を考慮にし、児童の発達段階や英語教育への興味関心に応じて、実習でどのように実践で活用するかを今後検討し、考察を繰り返さなければならない。絵本を取り扱った活動は日本の英語教育の中では一つに過ぎないために英語教育で様々な応用する方法を考えなければ楽しい活動で終わってしまうことも考えられる。文法応用としての教材以外に内容における異文化の様相も考慮する教材にしなければならないと考える。

これから英語が持つ文化に触れることが増えることが予想される。映画や本以外に、インターネットなど、様々なメディアで英語と触れることになるために英語を読む習慣が求められると考える。これまで母語（日本語）による絵本の読み聞かせは本を読む楽しさに繋がってきた。幼児を対象にした第二言語学習における絵本の活躍はアメリカをはじめ、多くの先行事例が存在する。そのため英語絵本の読み聞かせは英語を読む楽しさに繋がれば、英語が持つ文化に限らず、世界にある様々な異文化に関心が向上し、英語をツールとしての言語学習にも繋がると期待できる。

引用・参考文献

- (1) 熊田岐子・岡村季光 (2017) 「英語スピーキングに対する不安尺度作成—小学校英語の教科化に向けて—」奈良学園大学紀要第7集
- (2) Krashen, Stephen: The Input Hypothesis: Issues and Implications, London, Longman, 1985
- (3) 公益財団法人日本英語検定協会、「小学校の外国語活動及び英語活動等に関する現状調査」総合編（国・公・私立小学校）対象（平成25年12月実施）
- (4) 藤井 康寿 (2016) 「絵本の読み聞かせ評価システムの開発と実践結果—提出された学生レポートの考察から得られた絵本の読み聞かせの学習効果—」2016 PC カンファレンス
- (5) 松本由美 (2015) 初期英語教育における絵本の有効活用—児童の自発的反応を引出す「読み聞かせ」の試み—玉川大学リベラルアーツ学部研究紀要第8号
- (6) 吉村美幸・吉田朋世・今井信義・福島安希子 (2017) 「小学校における英語絵本の読み聞かせの研究—担任が無理なく取り組める手法を探る—」福井県教育研究所研究紀要122号
- (7) umnLibraries, Read This Book! - Best Picture Books https://www.youtube.com/watch?v=Ij2WCL_zwgg